

最優秀賞

## 「大すきなおにいちゃん」

茨城県八千代町立西豊田小学校二年 田神 滉大

「おにいちゃん、いっしょにねよう。」「しょうがないな。いいよ。」

ときどきぼくはおにいちゃんのふとんにもぐりこむ。せまいベッドの中に、小さくなっていっしょにねむる。朝おきると、お母さんがいつもわらう。どうしてかっというと、ぼくが、ぐるぐるねているときに回ってんして、さかさになっているから。たぶんねむりながら、おにいちゃんのことをけつとばしていると思う。でもおにいちゃんは、おこらない。おにいちゃんも「また、はんたいにねてたな。」って言ってわらってくれる。

おにいちゃんは、ぼくより10さいも年上。ぼくが生まれたとき、とつてもうれしかったんだって。赤ちゃんだったぼくを、ベビーカーにのせて、さんぼしたり、おもちゃをつかって、ぼくをわらわせたり、よくめんどうをみてくれてたって、お母さんから聞いた。ぼくが、ちよつと大きくなると、いっしょにおふろに入つて、からだをあらつてくれた。おとうさんは、毎日いそがしくて、かえりもおそいから、おにいちゃんは、小さなおとうさんみたい。

おにいちゃんは、やさしくて、ぼくといっしょによくあそんでくれる。ぼくがひとりでサッカーボールをけていると「いっしょにやるか。」と言って、キックのしかたやドリブルのやりかたを教えてくれる。おにいちゃんは、サッカーぶに入ってるからとつてもうまいんだ。いっしょにサッカーをするときは、ぼくにあわせて、ちよっぴりやさしくボールをけつてくれる。つよくけると、ぼくが、うまく足でボールを止められないと思つてるんだろ。うな。おにいちゃんのサッカーのし合を、おうえんに行くと、おにいちゃんのパスは、ぼくとやつているときはちがつて、はやくてつよいから。あい手にまけないとひつしでボールをおいかけるおにいちゃんは、かっこいい。「がんばれ！いけ。」おとうさん、お母さんといっしょに、ぼくも大きな声でおうえんしちゃうんだ。ぼくは、おにいちゃんがシュートするところを見るとわくわくしちゃう。「入れ〜。」つて、心の中でさけんじちゃうんだ。ぼくも大きくなつたら、おにいちゃんみたいに、サッカーをやるんだ。「おにいちゃんが、家にいるのもあと少しだよ。」つてお母さんが言った。大学に行くと家から出てひとりですんだつて。おにいちゃんといっしょにすごすさい後のなつ休み。ぼくは、いっばいいいっばいあそんでもらうんだ。おにいちゃんが大喜びだから。